

平成14年度小学校ジョイフル英語学習実践事例

小学校名	可茂地区小学校	対象学年	高学年	実施時期	1月
題 材 名	パースデイ・パーティを盛り上げよう				
主 な 表 現 補 助 資 料	We're (You're , They're) singing. 動詞の絵カード、テキスト(英国版)、付属 CD				
本時の目標	動作や挿し絵を使って we, you, they を主語にした現在進行形の言い方に慣れるとともに、現在進行形を使いながら Action basket のゲームを行うことができる。				
学 習 活 動	教師の指導・援助	留 意 点			
<p>復習 動作を表す表現 (cry, sing, shout, run, laugh, walk) を復習をする。</p> <p>新しい表現の練習 新しい文の紹介を聞く。 We're singing. You're singing. They're singing.</p> <p>動作をつけながら繰り返し練習する。 What are you doing? We're ~ ing: 全員で動作する。 You're ~ ing: JTE に指名された児童が ALT と一緒に動作する。 They're ~ ing: 手で指されたクラスの半分が動作する。</p> <p>&lt; 答えの例 &gt; We're crying. {泣く} We're shouting. { "stop!" と叫ぶ } We're running. {走る動作} We're laughing. { 「ハッハッハ」と笑う } We're walking. {歩く動作}</p> <p>CD に続いて言ったり、話している人を指さしたりする。</p> <p>ゲーム "Action basket" を行う。 ゲームのやり方を理解する。 ・輪になっていすに座る。(カラーテープが輪を半分に分けるように座る。) ・真ん中に一人が椅子なしで立ち、鬼となる。全員で真ん中の鬼に向かって、 "What are you doing?" と聞く。鬼は本時に学習した進行形の文を言い、座っている児童に動作させる。 ・ "You are walking (running)." と言われた時は指示された児童が席を立ち移動する。 ゲームを行う。</p> <p>がんばったことを認め合う。 自分や友達の学習ぶりについて次の点から発表する。 ・楽しかったこと ・盛り上げようとしたこと ・英語を工夫したこと ・笑顔で</p>	<p>A&amp;J: ALT が発音して JTE が動作や絵を示したりして、テンポよく働きかけ児童が発話しやすいようにする。</p> <p>A &amp; J: "we" "you" "they" の用法について、人を指しながら説明する。</p> <p>A: 「ラララ」とドレミの音程とリズムをとって歌いながら発音を繰り返す。</p> <p>J: "What are you doing?" と ALT に質問するとともに、英語の発音に自信をもてない児童や動作がぎこちない児童の横について、一緒に英語を言ったり体を動かしたりする。</p> <p>A: JTE の質問に答え、答え方や発音のモデルを示す。特に、動作については、大きなジェスチャーを示す。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>A&amp;J: ALT がはじめに鬼になり、JTE が "What are you doing?" とたずねる。ALT は で練習した英文を中心に答え、JTE はその英文に応じて動き、児童にルールを理解させる。</p> <p>J: 鬼になった児童で、声が小さかったり、英語の発音がつまってしまう児童を励ますとともに、ゲームを盛り上げようとしている児童のよさ(英語表現の工夫、大きい声、表情やジェスチャー)を価値付け、自信をもたせる。</p> <p>J: ゲームが盛り上がるように表現や指名を工夫した児童を認め、価値付ける。</p> <p>A: 英語を聞き取って、瞬時に反応した姿を価値付ける。</p>	<p>前時に使った絵カードを見せながら表現を思い出させる。教室に掲示してあればそれを使う。</p> <p>人を指すときには人差し指で指すと失礼になるので、手全体で指すことを説明する。また、進行形については肯定文のみを扱うとともに、詳しく触れずに、必要に応じて「～しています」という意味を日本語で補足する程度にする。練習やゲームにすぐ取りかかれるよう、教室を半分に分けるカラーテープを授業前に貼っておく。</p> <p>{ } 内の動作、言葉を付けて答えさせる。初めは、教師がモデルを示すが、途中から児童だけに動作をさせ、ゲーム性をもたせて行う。また、表現や動作は後でゲームをする際に用いるので、スムーズに言える程度に慣れるまで繰り返して練習する。</p> <p>CD の音声にも触れさせ、同じ文でも違う人(違う外国人)が話すと違って聞こえたり、聞き取れなかったりすることがあることに気付かせる。ルールは「フルーツ・バスケット」とほぼ同じであるが、"we, you, they" の用法がやや理解しづらいことが予想されるので、具体例をできるだけ多く与えるようにして、児童が戸惑わないようにする。</p> <p>一方、極力 ALT の英語だけの説明で理解させるようにして、JTE の日本語は必要最小限の説明や理解を確かめる程度にとどめる。</p> <p>できるだけたくさんの児童が鬼になる(同じ児童が何度もならない)と、ゲームが盛り上がることを話し、みんなで話す英語や "we, you, they" の用い方を工夫するように課題を与える。</p> <p>個人名を挙げたりして、盛り上げようとしていた姿や、表現や指名の工夫を具体的に話す。</p>			